

令和5年度 全国学力学習状況調査の結果 京都市立梅津小学校

4月18日に、6年生を対象に行われた「全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりました。今年度は、国語・算数の2教科のテストと、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査が行われました。学力と生活習慣の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えいたします。

国語科より

全体的によくできており、全国平均よりも6ポイントほど上回っていました。中でも、「送り仮名に注意して漢字を分の中で正しく使う」（くらべて→比べて）問題や「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する」問題はよくできていました。

しかし、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」や「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」といった「読むこと」「書くこと」に関する記述式の問題については全国、本校ともに他の問題に比べて低い正答率となっています。

普段から読書に親しみ多くの文章に触れたり、必要な情報を読み取って自分の考えをまとめたりする経験を多く積むことが、大切になってきます。



算数科より

全体的によくできており、全国平均よりも5ポイントほど上回っていました。特に「変化と関係」の「伴って変わる2つの数量の変化の特徴を読み取り、表の中に適切な数を選ぶ」問題は全国平均と比べ、高い正答率となっていました。また、2けた×2けたの計算や図形の名前を問う問題もよくできており、基礎的な学力を身に付けることができています。

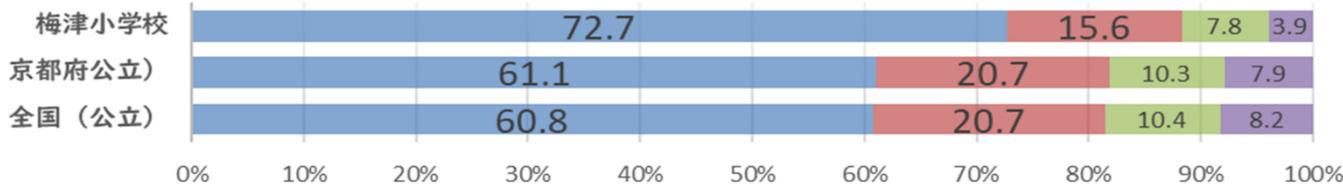
ただ、「示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ」問題は全国平均よりも7ポイント低くなっていました。日常生活の中でも割合を活用していくとする態度を育てていくことも大切です。

今後も、基礎基本の力を確実に定着させながら、個別の課題を児童一人一人が意識できるよう指導をしていきたいと思っております。



児童質問紙調査から

Q 将来の夢や目標を持っていますか。



「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問項目について本校の児童は京都府や全国に比べて肯定的な回答が多く見られました。自分の将来や、なりたい姿を想像することで、それに向かって努力する意欲が湧いてくると考えます。逆に、自己肯定感が低いと自分に自信がもてず将来に対する希望をもつことが難しくなります。子どもたちがよりよく成長できるよう、学校・家庭・地域で前向きな声かけを心がけ、共に見守っていききたいと思います。

保護者の皆様へ

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、また、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤となります。本校の学校教育目標である「進んで学び、自らの力で未来を切り拓く子ども」に向けて、今後も、学校・家庭・地域が連携・協力していきたいと考えています。今後ともご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。

